

令和4年度 美幌町社会教育委員研究調査報告

「第8次美幌町社会教育中期計画推進目標の研究
～推進目標3 多様性を尊重した学び」

令和5年3月

美幌町社会教育委員会議

令和4年度研究調査報告にあたって

令和4年3月、私たち社会教育委員は策定委員として第8次美幌町社会教育中期計画を策定しました。

この計画で定めた推進目標3項目は、社会教育法に基づく研究調査として令和2年度から2か年の議論を重ね、社会教育委員13名の総意として設定された項目です。将来の美幌町を思い、推進目標実現に向けて教育委員会と力を合わせて、私たちも事業視察や研修等を通して様々な提言を行ってまいりたいと決意を新たにしているところです。

さて、今年度の社会教育委員研究調査は、第8次中期計画推進目標の1つである「多様性を尊重した学び」に着目し、その理解を深めるために研究調査を積み重ねてまいりました。

一言で「多様性」と言ってもその切り口は様々であり、これが正解、というものはありません。ただお互いを思いやり、配慮し、それぞれの生き方を認め合うということは、新型コロナウイルス感染拡大を機にデジタル化が急速に進み、人と人とが直接触れ合わなくても日常生活を送ることができるようになった現代社会だからこそ重要なものであり、このことを再認識する研究調査となりました。

本研究調査が本町社会教育行政充実の一助として、また第8次美幌町社会教育中期計画推進目標実現のための一助となれば幸いです。

また日頃から私たち社会教育委員の活動を支えてくださっている教育委員会事務局職員はじめ、すべての皆様に心より感謝を申し上げます。

令和5年3月

美幌町社会教育委員長 牛島吉蔵

令和4年度 美幌町社会教育委員研究調査報告 目次

令和4年度 研究調査報告にあたって

社会教育委員長 牛島 吉蔵

1	研究テーマの設定経過	3
2	研究調査の取組経過	3
3	研究調査の内容	4
4	考察	9

令和4年度 美幌町社会教育委員事業視察まとめ

1	事業視察まとめにあたって	11
2	事業視察まとめ	12

令和4年度 美幌町社会教育委員活動実績

令和4年度 美幌町社会教育関係委員等研修会資料

1 研究テーマの設定経過

第 8 次社会教育中期計画の初年度となる今年度は、本計画推進にあたり今後どのような視点を持って社会教育事業を進めていくのかという観点から研究調査に取り組んできました。

テーマ設定の理由としては大きく 2 点あり、1 つは「多様性」と言っても様々な切り口があり、現実問題としてどのようなものなのか、つかめていない部分が多いこと、もう 1 つは今後の世の中の流れを見た時に、この「多様性」が重要視されていくものと思われ、今後の社会教育事業の改善や新たな取組を構築するにあたり現状等を理解した中でどういう方向性が望ましいのかというところを教育委員会と社会教育委員との間で共通認識を持った中で進めていくことで、推進目標としての「多様性を尊重した学び」実現のための一助としたいと考えたことによります。

2 研究調査の取組経過

- 令和 4 年 7 月 14 日（木） 社会教育委員会議（第 3 回）開催
○研究調査内容について提案
○「多様性」という言葉の持つイメージについて意見交換
- 令和 4 年 12 月 10 日（土） 社会教育関係委員等研修会
「”違う”を楽しむ、分かち合うコミュニケーション上達講座」
- 令和 5 年 1 月 26 日（木） 社会教育委員会議（第 5 回）開催
○社会教育関係委員等研修会の内容共有
○「美幌町内に外国人が増えることにより生じる良い面と悪い面」をテーマに意見交換
（教育委員との意見交換を兼ねる）
- 令和 5 年 3 月 23 日（木） 社会教育委員会議（第 6 回）開催
○研究調査報告

3 研究調査の内容

(1) 令和4年7月14日(木) 社会教育委員会議(第3回)

この日の会議では、社会教育委員それぞれが「多様性」という言葉の持つイメージを自由に発言してもらい情報共有を図りました。会議出席者を2つのグループに分け、次のような意見が出されました。

【グループA】

- ★多様性にどのように向き合うか
 - ・自分以外の人を受け入れる・理解すること
 - ・自分とは異なる価値観を受け入れること
- ★現状はまだ身近になっていない
 - そうした方々(異文化・LGBTQ・障がい等)と接する機会が少ない日常化されていない。
 - ・異なるものを排除する傾向(この価値観を取り除くには時間がかかる)
- ★多様化への対応
 - ・(頭が柔らかい、固まった価値観のない)子どものころから意識する
 - ・生活の中で身に付けていく
 - ・学校と養護学校→近いところでのノーマライゼーションに取り組む
- ★では、大人はどうするか
 - 同じ悩みを持った人との仲間づくりを行っていく。
 - (このようにすればよいという)正解がない。

【グループB】

- ★多様性とは
 - ・内的なもの(考え方・精神的・生まれ持ったもの)
 - ・外的なもの(育った環境、後天的なもの)
 - ・1つの言葉であっても人の見方、聞き方によって全部違う
 - ・共通意識として「特別なものではない」ということ。
- ★日本では多様性とは逆の場であった
 - 一律や平等の枠の中に無理やり押し込めている
- ★世界では
 - ・子どものほうが多様性についてずっと知っているのではないか
- ★教育の役割は
 - ・今こそ認め合う「コミュニケーション」の必要性
 - ・枠にはめる組織化ではなく、状況・人・場がマッチングした人たちで人の輪を広げていく
- ※見えにくい人、「参加しない人」はどうするのか(社会教育の永遠の課題)
 - 社会に出る扉の鍵を持っているのは自分自身である
 - ・社会に出る一步目に「安全と挑戦」が必要である
 - ・「安全と挑戦」を創出することが社会教育の役割ではないか

(2) 令和4年12月10日(土) 社会教育関係委員等研修会

多様性理解を深めるため、社会教育関係委員を含む広く一般町民を対象とした研修会が教育委員会主催で開催されました。国際協力の最前線で活動する JICA (独立行政法人国際協力機構) より講師 2 名が来町され、美幌町に外国の人たちが増えたことによってどのような良いこと、どのような心配ごとがあるかについてグループワークが行われた後、多様性を理解するための体験ゲーム「ばーんが」に取り組みました。

「ばーんが」はトランプのページワンがベースとなっていますが、「ゲーム中の会話 NG」「1 グループ 5~6 名」という共通ルールに加え、それぞれのグループで一番強いカードやパスの時の動作などのルールが微妙に異なっており、このことが参加者を知らされていない状況下で行われました。その上で、グループの中で手持ちのカードが最も早くなくなった人が別のグループへ移動し、別のグループのルール(文化)に従ってゲームを続けます。別のグループから移動した人が感じる気持ち、そして別のグループから来た人を受け入れる側の気持ち、それぞれの気持ちの動きを「ばーんが」というゲームを通じて体感することのできる素晴らしい内容でした。

異文化体験ゲーム「ばーんが」を終え、研修会参加者から寄せられた感想等は次のとおり(原文のまま掲載)です。

●他のグループに移ってゲームをしているときの気持ち

- ・えっ、さっきとルールが違う！どうやって理解しよう・・・戸惑い
- ・何とかそのグループのルールに従ってやっていけばいいか
- ・あれ、何かが違う・・・周りの様子をうかがって人に合わせなきゃと、焦る気持ち
- ・グループにもともといた人に従う、様子を見ながらゲームの内容を確認
- ・変だな、自分の知っているルールと違う、自分がおかしいのかな？
- ・ルールが同じだと思っていた、「パス」が違うのかな、違いがあってもいいかと思っていた
- ・すでに先に移動している人が地ならしをしていたため、違和感なし

●他のグループからの人を受け入れてゲームをしているときの気持ち

- ・このゲームのルールを理解していないのかな？
(新しく今知ったばかりなので)
- ・私が正しい！良く勝ってきたなあ
- ・声で伝えられない分のストレスはあったが、そのうち周囲に合わせていただけようになったので、わかっていただけよかったようだ
- ・いらっしゃい、歓迎します。パスの時の動作？

● 他のグループからの人を受け入れてゲームをしているときの気持ち（続き）

- ・ルールが違うんだろうなと思ったけれど、説明するのが難しかった。どのルールにのっとるのか、多数決にするか、じゃんけんで勝った人に従うのか、話さずに決めるのは至難の業でした。
- ・「どんなルールだったのかな」と、良く相手を見ようと思った。他にもあるかなと考えた
- ・違うパスの仕方におや？と思ったが、大した違いはないからいいかと受け入れた
- ・あれ、他から来た人やり方が違うな、こちらのやり方を理解していないよーうだ、教えてあげなきゃ
- ・なぜわからない、と思った
- ・移ってきた人が自分たちのルールと同じだと思っていたので気が付かなかった
- ・パスの仕方が違ったため「あれ」と感じたが、何となく理解できた

● どのようにルールを確認、統一しましたか？

- ・パスのジェスチャーはそれぞれのチームの行いで違うようなので、スルーするように統一した
- ・統一しなかった（目をつぶるので反応が分からない）
- ・2種のパスジェスチャーを使った。相手のルールに合わせた
- ・慣れなくちゃ！
- ・パスのやり方はお互いのグループの方法をとおした、ジョーカーありのグループだったが、(ジョーカーが)ないグループの人が来てない人に合わせた
- ・ルールをジェスチャーで説明して理解してもらおうとした、最初のルールに合わせようとした
- ・じゃんけん（原住民と移民）

● このゲームで体験したような気持ちになるのは、実生活でどのような場面だと思いますか？

- ・新しい環境（学校の職場）で新しい内容ややり方を学ぶとき
- ・海外遠征のカルチャーショック時
- ・新人を迎えた時、色々な行動が見られる（違和感＝多様性）
- ・言葉が通じないとき、意味が理解できないとき
- ・海外旅行に行った時、どういうルール、マナーかを早く理解しようとする。日本人や日本語が通じる人がいるとホッとすること
- ・外国（や生活習慣）の異なる方々と交流などをするとき

●この体験から、「明日から私たちにできること」は？

- ・壁を作らず、フラットな気持ちで対面できるように心がけたい
- ・価値観の違いを受け入れ、相手の気持ちを考えること
- ・価値観の違う人に対して接し方、考え方、受け入れ方など慎重に接していると思った。
- ・他者理解（難しいことが分かった）
- ・言葉が通じないので、見様見真似でも何とか通じるところがあるのだなと思ひ、まだ外国人と対面したことがないので、どうなるのだろうか。やはり言葉が大事
- ・違う考え方を受け入れようと思った
- ・マイノリティを受け入れる
- ・思いを伝えるには話せることですが、相手の状況や立場を推し量ってそうできるよう、真意が伝わるように努力したいと思いました。
- ・相手をよく見て知る（理解）、ルールをよく見比べルールを疑う
- ・違いを無理に統一しようとしなない。それぞれの行動を知り、受け入れられるものは受け入れる。機会があれば話し合う
- ・郷に従うと丸くおさまる。新たに来た方で分からない内容は教えてあげる

(3) 令和5年1月26日（木） 社会教育委員会議（第5回）

12月10日（土）の研修会の成果を共有するとともに、多様性の切り口の1つとしてイメージされることの多い「外国人」をキーワードとして、12月の研修会でも取り上げられた「外国の人が増えることによって生じる良い面と悪い面」をテーマに社会教育委員の意見交換を行いました。この意見交換には教育委員4名にも参加いただき、参加者を2つのグループに分け、最初に参加者それぞれが考える良い面・悪い面を発表しあい、それらを共通項でグループ化し、グループとしての考え方を整理していきました。

【グループA】

- ・良い面が多く、悪い（不安や心配な）面は少ないのではという意見
- ・外国人を受け入れるからこそ得られるもの
 - 言語、文化などの新たな発見、もちろん人口増にもつながる
- ・不安なこと→心配ないという声もあるが、マナーやルール、生活様式の違いをどうするのかということ
 - ※違うことを受け入れていくこと（やさしさを持って）
 - ※自らの行動を変えていくことで周囲に波及させていく

【グループ A 続き】

- ・「あなたは何が好き？」という、当事者の内面を知ることができるような問いかけやコミュニケーションの取り方があって良いのではないかと
→外見的なことではなく、得意なことややってみたいことなど
→こうしたコミュニケーションがあると外国人とのつながりが持てるようになるのではないかと
- ・受け入れる側の「ゆとり」や「余地」が必要
→仕事を持ちながらだとそこまでの余裕が持てないかもしれないが、現実としてすでに色々な方々が身近に生活しているので、受け入れる側は努力してゆとりや余地を作っていくといけない
- ・ルールや規範を「（言わなくても）わかるでしょ」「当たり前だよ」という考えを押し付けることは危ない
→わからない人がいる（むしろ多い）という認識に立ち、言葉にして明確に伝えていき、その差を埋めていくことが必要。
- ・言葉はボディランゲージを含め広く表現するという意味で学ぶが必要
→ささいなことでも通じ合える環境を作っていく努力、言葉が通じないという前提ではなく伝えていくための学びと努力を

【グループ B】

- ・良い面、悪い面が半々程度の意見
- ・外国人を受け入れることによって美幌町のアピール、人口増加が期待
- ・一方で言葉が通じないことによる行き違い、生活習慣やルール、コミュニケーション、適切な医療につなげない、冬の寒さなどが心配
- ・教育委員会で外国人などを受け入れるにあたっては「安心と安全」が大前提であり、このことを大事にしてほしい
→参加してもらうには、衣食住などの基本的な生活が長期間、安定的に整っていることが重要
- ・日本人の考えている「当たり前」は外国人に通用しない
→このことを理解した上で、外国人を社会教育事業にどのように溶け込ませていくことができるかを考えてほしい
- ・外国人に対しては言葉や違いがあっても何とかなる（受け入れられる）と思えるが、日本人同士の接し方こそもっと考えられるべき
→コロナ禍で急速にデジタル化が進み、人と関わることなくとも日常生活が送れるようになったにもかかわらず、わざわざ「人と関わる」という機会が必要なのでは
→人の心を揺り動かす体験が今こそ求められている

4 考察

「多様性」をテーマとした今回の研究調査は、その言葉以上に複雑な問題を持つものであることがわかりました。

今回の研究調査で問われたのは、言葉が通じる日本人同士のコミュニケーションさえも今のままで良いのか？という点と、外国人など様々な立場に置かれた方々を受け入れる住民個々の「ゆとり」や「余地」をどのように作っていくか？という点です。新型コロナウイルス感染拡大を機に急拡大したデジタル化の利便性や良い点を理解し、受け入れつつも、住民同士の直接的な交流のもつ温かさやデジタルでは得られない感覚、「人々の心をちょっと揺り動かす」機会、これまで社会教育関係各課で取り組んでいる素晴らしい事業に1人でも多くの町民に参加してもらうことが何よりも重要です。コロナ禍で思うような事業実施ができないまま3年が経過しようとしています。次年度以降は各課が力を合わせて、子どもたちから高齢者に至るまであらゆる世代の人々の心を動かす事業展開を大いに期待しています。また各課で実施する魅力あふれる事業に1名でも多くの町民が参加していただけるよう、そのPR等にもより一層力を注いでいただきたいと思います。

多様性は住民相互のコミュニケーションをより円滑に、そしてお互いが幸せに生活できる「潤滑油」の機能を持っていると考えています。「多様性を尊重した学び」という推進目標には、美幌町に住んでいてよかった、そして「私の居場所が美幌町にある」と思ってもらえる住民を1人でも多く増やしていきたいという願いを込めています。この願いを実現させるには、住民相互に認め合うことから始まります。認め合うということは、自分の感覚では理解できない世界があるということ、自分の思いどおりにはならない現実があるということを知る、これらのことを受け入れることが多様性を理解する第一歩だと捉えています。

様々な機会を通じて、これらのことを町民に広く伝えていただきたいと思います。

コロナ禍で事業運営が大変な状況の中、創意工夫を凝らして丁寧に対応いただいている教育委員会職員の皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。

令和4年度

美幌町社会教育委員事業視察まとめ

1 事業視察まとめにあたって

私たち美幌町社会教育委員は、美幌町社会教育中期計画の推進目標に沿って実施される各課の事業を視察し、予算の増減にかかわらず改善工夫すべき点がないか、さらには毎年度実施している中期計画推進目標の達成度評価の一助とするため、平成28年度から事業視察を継続実施しています。

事業視察は社会教育委員13名を社会教育・スポーツ振興・博物館・図書館の4グループに分け、各課で実施する事業の中から2～3事業を選び、各グループ単位で視察を行っています。また所属するグループは1年ごとに変わり、前年度と同じグループに属さないよう教育委員会事務局が調整をしています。

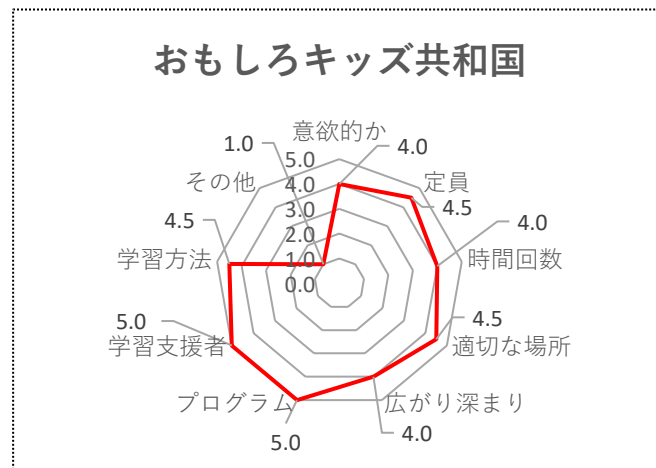
視察にあたっては8項目の視点でその適否を確認いただいております。視察結果等については、毎年度の研究調査報告と合わせて教育委員会に報告されます。

今年度は、社会教育委員を次の4グループに分け、それぞれ視察いただきました。

グループ	氏名(☆=グループリーダー)	視察事業名	日程
社会 教育	☆茂手木 敏夫	おもしろキッズ共和国星空観察	9/17
	池田 潤	第72回美幌町文化祭	11/3,5,6
	西谷内 弘子	びほーる演劇ひろば活動成果発表会	3/12
スポーツ 振興	☆宮崎 奈津江	サタ☆スポ(土曜日学校体育館開放)	11/19
	牛島 吉蔵	健康寿命アップ講習	12/8
	辻 朱美		
	澤田 孝一		
博物館	☆國澤 智子	まちの色で描く型染めパネル	9/10
	柰師 美和子	世界が注目するシベリア北極圏の旧石器文化	11/12
	伊藤 善啓		
図書館	☆酒井 徹雄	マジックと音楽と絵本のコンサート	8/7
	寺田 義博	開館70周年記念図書館フェスティバル	9/25
	下山 朋久	レコードコンサート(ロック)	10/15

2 事業視察まとめ

(1) おもしろキッズ共和国「親子で見上げる星空観察」(社会教育)

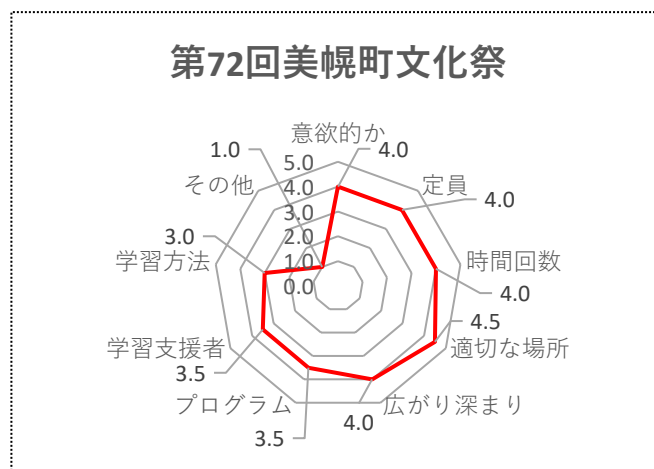


【感想等】

- 残念ながら曇り空のため、バス移動して現地での星空観察は中止でしたが、円館様ご夫妻によるプロジェクターでの映像を見ながら天の川や各種の星座、そしてUFOのことなどもわかりやすく説明していただきました。星座早見盤もいただいたので、今度活用してみようと思います。次は天気の良い日に実際の星空観察を試みたいですね。
- 残念ながら外での星空観察は悪天候のためできませんでしたが、びほーるのギャラリーで星空を上映しながらの活動となりました。壁一面に星空がきれいに映し出され感動しました。最後に子どもたちに「質問ありますか?」と聞いておられましたが、残念ながら質問等はなく…今後はあらかじめいくつか質問の例などがあれば子どもたちも、あんなことやこんなことを聞きたい・知りたいにつながるのではないのでしょうか。



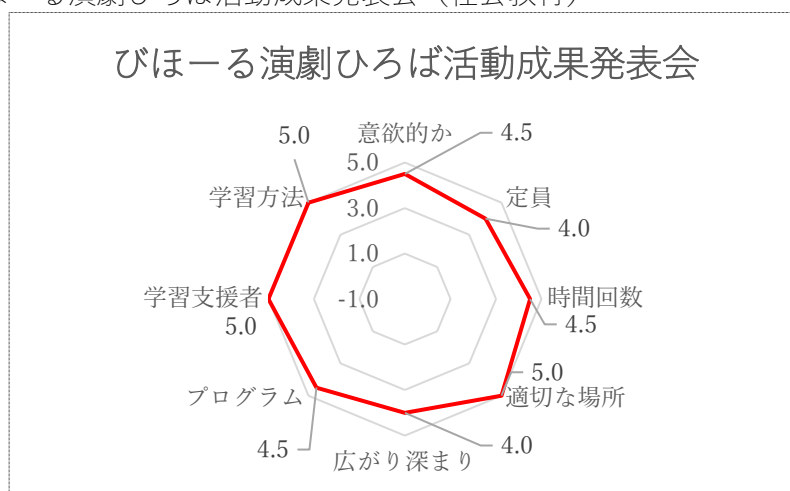
(2) 第72回美幌町文化祭 (社会教育)



【感想等】

- コロナ禍ということもあり、出展作品が以前と比べて少ないように思いましたが、どれも力作揃いで驚きました。その中で、スクラッチアートという作品を初めて知り、作品の説明もしていただくことができました。
- この事業とは別に、美幌高校吹奏楽部の演奏会を鑑賞してきました。演奏内容はもちろんですが、照明の技術にも感動しました。
- どの団体も素晴らしい発表・作品展示でした。しかし残念だったことは、発表している最中に観覧者のおしゃべりが（舞台発表で）多いと感じました。観覧者がいての文化祭だと思うので、マナーを守っていただけるような工夫が必要だと思います。

(3) びほーる演劇ひろば活動成果発表会 (社会教育)

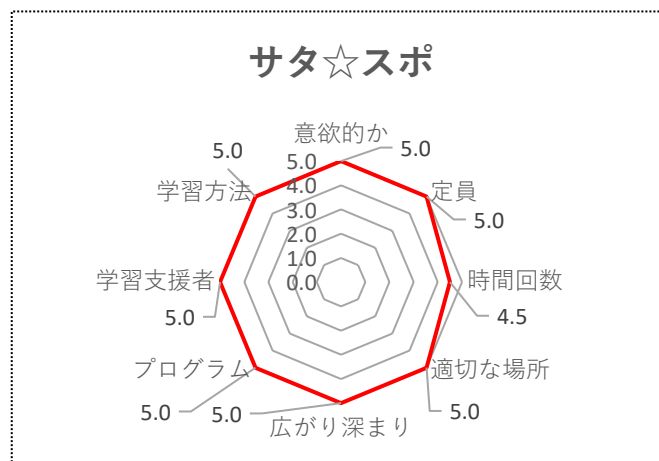


【感想等】

- 演劇や歌に興味のある子どもたちにとってはとても良い活動の場である。美幌町の素晴らしい施設を活動場所にできるのもとても良い。町内小中学校へ活動内容、参加者募集の案内を工夫して、興味のある子どもたちに周知したい。

○最初は緊張気味のように見えてましたが演劇、歌、日本舞踊と進行していくうちに硬さも取れて、普段の練習の成果が発揮できたのではないかと思います。また多くのスタッフが1つの舞台を支えているということも改めて知らされました。男の子が1名だったのがちょっと残念でしたが、1人でも多くのメンバーが増えて仲間づくりにも役立ててほしいと思いました。

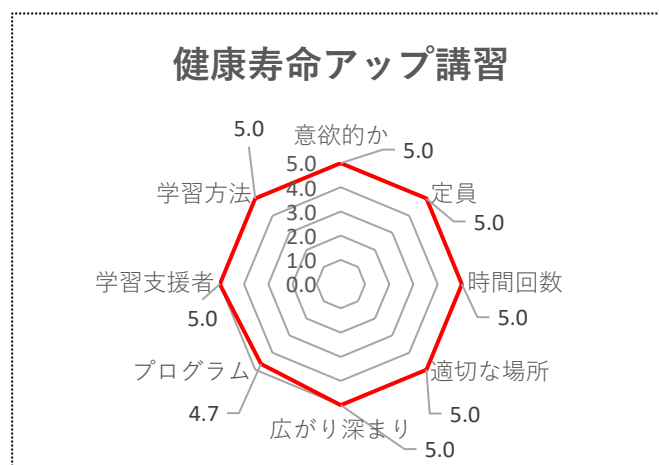
(4) サタ☆スポ (土曜日学校体育館開放) (スポーツ振興)



【感想等】

- 子どもが慣れた学校体育館で安心していられる。自分たちの好きな遊びを選択できる。自由にのびのび遊べていました。
- 子どもたちが自主的に楽しく遊べるように工夫されていました。利用にあたっての注意事項、事故対応マニュアルなどもきちんと作成されていて安全にも配慮されていました。これから冬になり家でゲームとなりがちですが、多くの子どもたちに利用してほしいと思います。
- 周知が難しい様子。学校と協力し「明日サタスポあるよ」などの声かけや、前日にサタスポ旗をあげてもらうなど、多くの子どもたちに伝わるようになると良いと感じました。
- 可能であれば、月一度の開放日を増やしてはどうでしょうか。

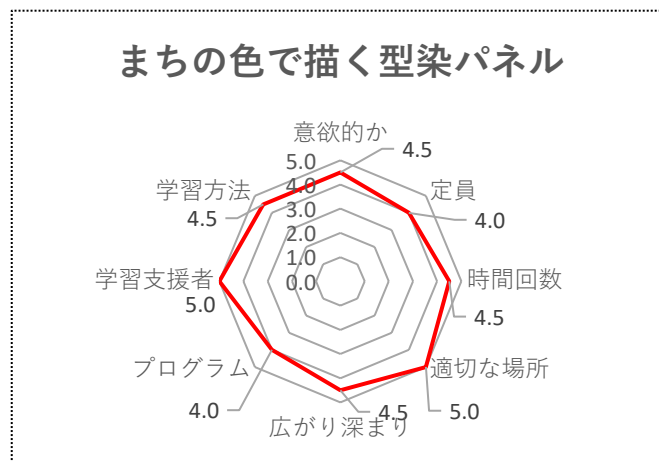
(5) 健康寿命アップ講習 (スポーツ振興)



【感想等】

- 人生 100 年時代、健康寿命を延ばすために良い事業だと思いました。参加者の皆様も笑顔で活動していました。参加者の方から講習の回数を増やしてほしい、町民の健康づくりに予算を取ってほしいとの声も聞かれました。
- 年を重ね、筋力や体力の衰えを感じている参加者に具体的で有効な運動を実体験で教えてもらえる内容でした。見て聞くだけより身につけやすい講習と感じました。
- 参加者も熱心に取り組んでおり、とても良い事業であると思います。

(6) プチ工房「まちの色で描く型染めパネル」(博物館)

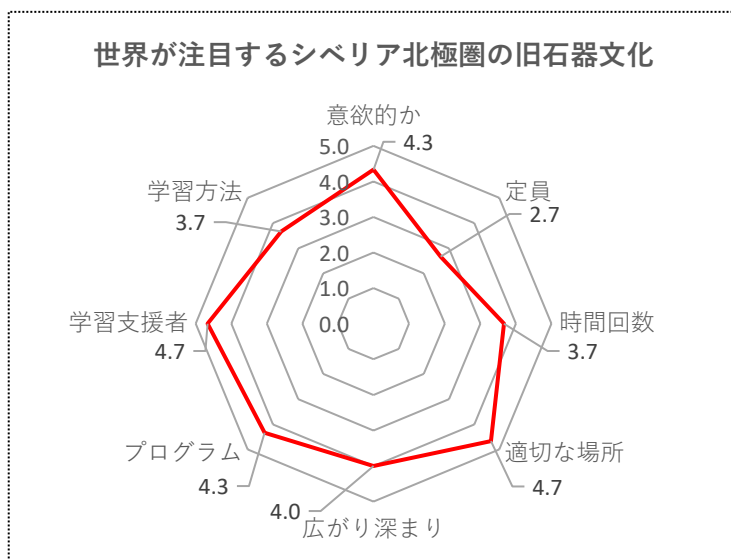


【感想等】

- コロナの関係で密にならないようにと人数が制限されていたようでした。講師の説明はしっかり行っていましたが、高齢者がほとんどでそのスピードについていけないようでした。細かな作業があり型抜きが大変で、道具のチェックが必要。カッターが切れないので作業に時間がかかりました。
- 型紙を作り特殊な絵の具で布を染めていく作業、とても楽しく実習できました。絵

具は美幌の色、いちい（オンコの木の実）、エゾムラサキツツジの2色を使用。絵具の色を見て「こんな色になるのか」と感心しました。

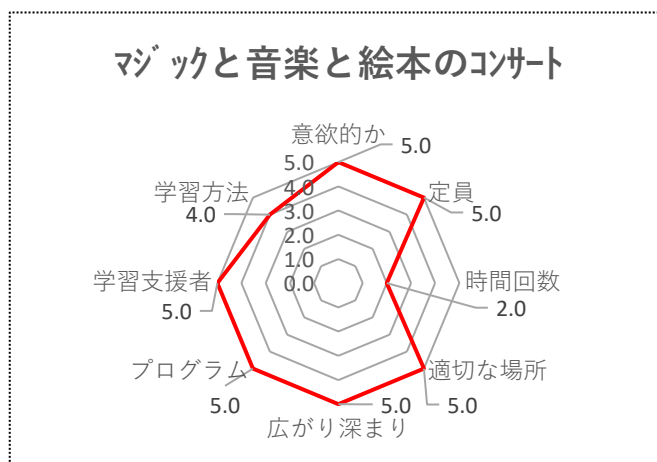
(7) 博物館講座「世界が注目するシベリア北極圏の旧石器文化」(博物館)



【感想等】

- 興味深い内容の講座で参加者は皆真剣に聞き入っていたが、内容に対して講座時間が短く、早い進行だったように感じました。
- 5万年前に人類が誕生し、初めてマンモスの骨で道具を作り狩猟文化が生まれ、食料を求めて移動し、環境問題（海水面 130m 上昇等）でマンモスが減少により石器文化が始まったという講話で興味深い内容でしたが、一般向けとしては難しいところがあります。この講話は専門家や学生に聞かせてあげたいです。定員 50 名に対して参加者 20 名ではもったいないです。

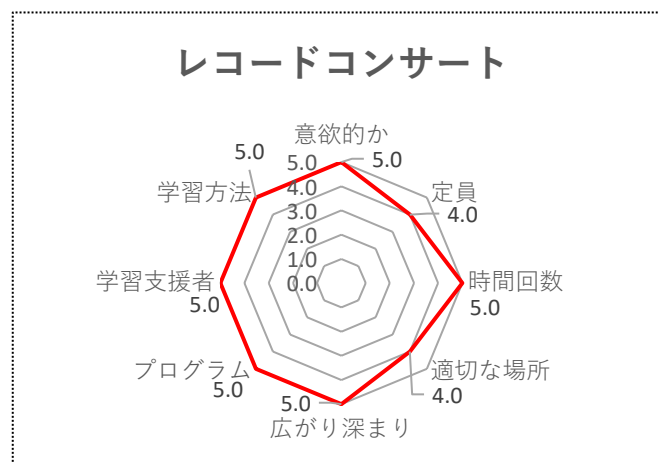
(8) 音楽とマジックと絵本のコンサート (図書館)



【感想等】

- 芸術性の高い素晴らしいコンサートでした。子どもたちの心に残る体験でした。
- （先方との契約の問題かもしれませんが）休憩なしの90分は小さな子供たちにとっても、世話をする保護者にとっても厳しい時間設定でした。ご自身のSNSの komma ーシャルなどはパンフレットで紹介する等すれば時間が短縮できたのではないかと感じました。子どもたちは最後まで集中力を持続し、頑張ったと思います。

(9) レコードコンサート (図書館)

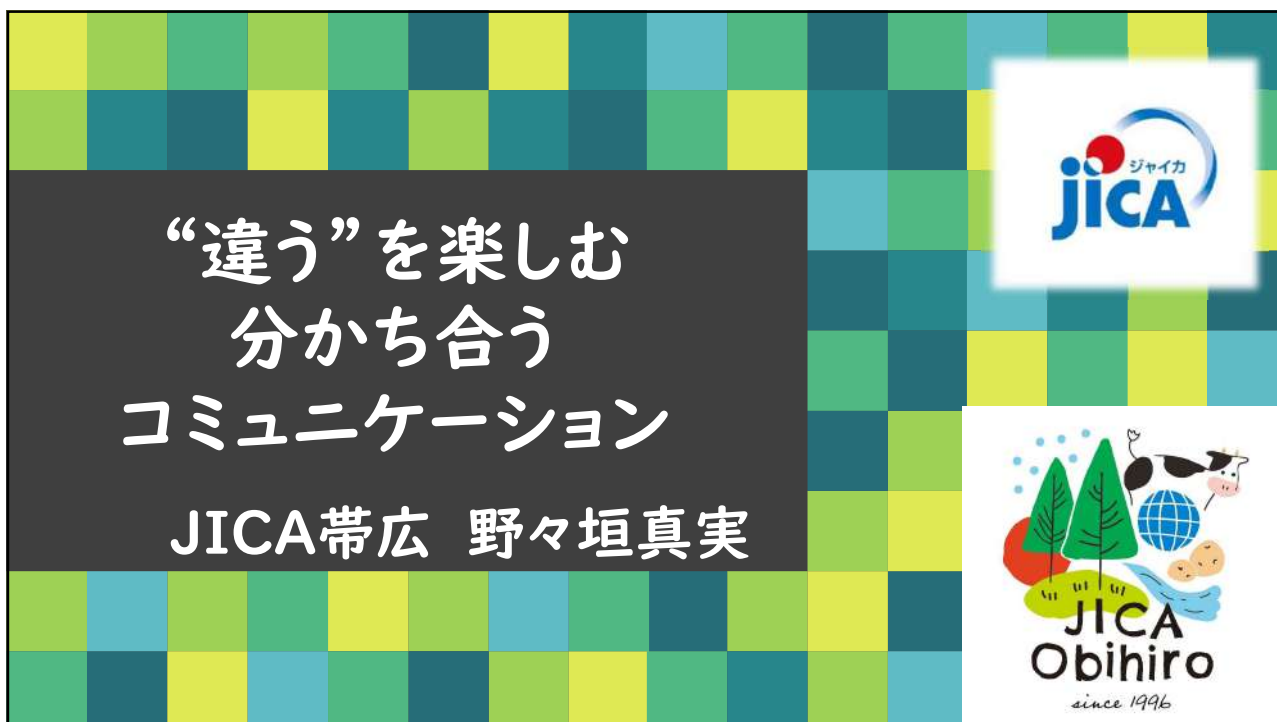


【感想等】

- DJ (竹花館長) の解説が大変わかりやすいです。マニアックな選曲で初めて聴くバンドもありましたが、解説が良く聴きどころを押さえて鑑賞できました。(自宅に戻ってから曲を探して聴き直しました)レコード盤のノイズが懐かしく、レコードの音質も良かったです。最後にビートルズを選曲するなど、余韻が残るコンサートでした。
- 町内にはもっとロック好きの人がいるのではないのでしょうか。場所も定員も多くして良いと思います。



令和4年度 美幌町社会教育委員活動実績

期日	活動内容	参加・出席者
令和4年		
4/28	第1回社会教育委員会議 (社会教育委員連絡協議会総会出席報告、補助金交付団体審議等)	委員12名 職員6名
5/27	第2回社会教育委員会議 (委員委嘱状況、前年度評価結果、令和4年度活動・事業計画、 図書館整備基本構想、研究調査)	委員11名 職員8名
7/8	令和4年度 北海道市町村社会教育委員長等研修会出席 (第42回) (札幌市、～7/9)	牛島委員長
7/14	第3回社会教育委員会議 (研修出席報告、事業視察、研究調査)	委員10名 職員7名
8/7	図書館課実施事業「親子読書普及事業～マジックと音楽と絵本の コンサート」視察	酒井委員、下山委員
9/10	博物館課実施事業「プチ工房～まちの色で描く型染めパネル」 視察	柰師副委員長、伊藤委員
9/17	社会教育課実施事業「おもしろキッズ共和国～親子で見上げる 星空観察」視察	茂手木委員、西谷内委員
9/25	図書館課実施事業「美幌町図書館開館70周年記念図書館 フェスティバル」視察	酒井委員、寺田委員
10/2	令和4年度 オホーツク管内社会教育委員連絡協議会 北見・斜網地区社会教育委員等研修会出席 (清里町)	牛島委員長、柰師副委員長、池田委員、 酒井委員、職員1名
10/14	北海道社会教育研究大会留萌大会 (第61回) 兼全国社会教育委員 連合北海道ブロック大会出席 (Zoomを活用したオンライン開催)	職員1名
10/15	図書館課実施事業「レコードコンサート～ロック」視察	酒井委員、寺田委員
10/16	令和4年度 オホーツク管内社会教育振興セミナー出席 (小清水町)	職員1名
11/3	社会教育課実施事業「第72回美幌町文化祭」視察 (11/3,5,6の3日間開催)	茂手木委員、西谷内委員
11/12	博物館課実施事業「博物館講座 (歴史編) ～世界が注目する シベリア北極圏の旧石器文化」視察	柰師副委員長、伊藤委員、國澤委員
11/19	スポーツ振興課実施事業「サタ☆スポ (土曜日学校体育館開放)」 視察	澤田委員、宮崎委員
11/24	第4回社会教育委員会議 (研修出席報告、令和5年度事業計画、研究調査)	委員10名 職員8名
12/8	スポーツ振興課実施事業「健康寿命アップ講習」視察	牛島委員長、澤田委員、宮崎委員
令和5年		
1/26	第5回社会教育委員会議 (事業視察、研究調査、教育委員との意見交換)	委員12名 教育委員4名 職員5名
3/12	社会教育課実施事業「びほーる演劇ひろば活動成果発表会」 (第8回) 視察	茂手木委員、池田委員
3/25	第6回社会教育委員会議 (令和4年度事業実績、研究調査報告、中期計画単年度評価、 令和5年度社会教育委員活動計画、令和5年度補助金交付団体審議)	委員9名 職員8名



“違う”を楽しむ
分かち合う
コミュニケーション

JICA帯広 野々垣真実



今日のおしながき

- ① JICAって？
- ② JICA北見デスクのご紹介
- ③ 北海道の未来を想像
- ④ ワークショップ「ばーんが」

JICAって？



Japan (日本)
International(国際)
Cooperation(協力)
Agency(機構)

日本の
「国際協力」を、
実行しています！



どくりつ ぎょうせい ほうじん
独立行政法人

こくさい きょうりょく きこう
国際協力機構

JICA 北海道

札幌センター



帯広センター



日本全国にあります。
世界中約100カ国にも事務所があります。

技術

資金

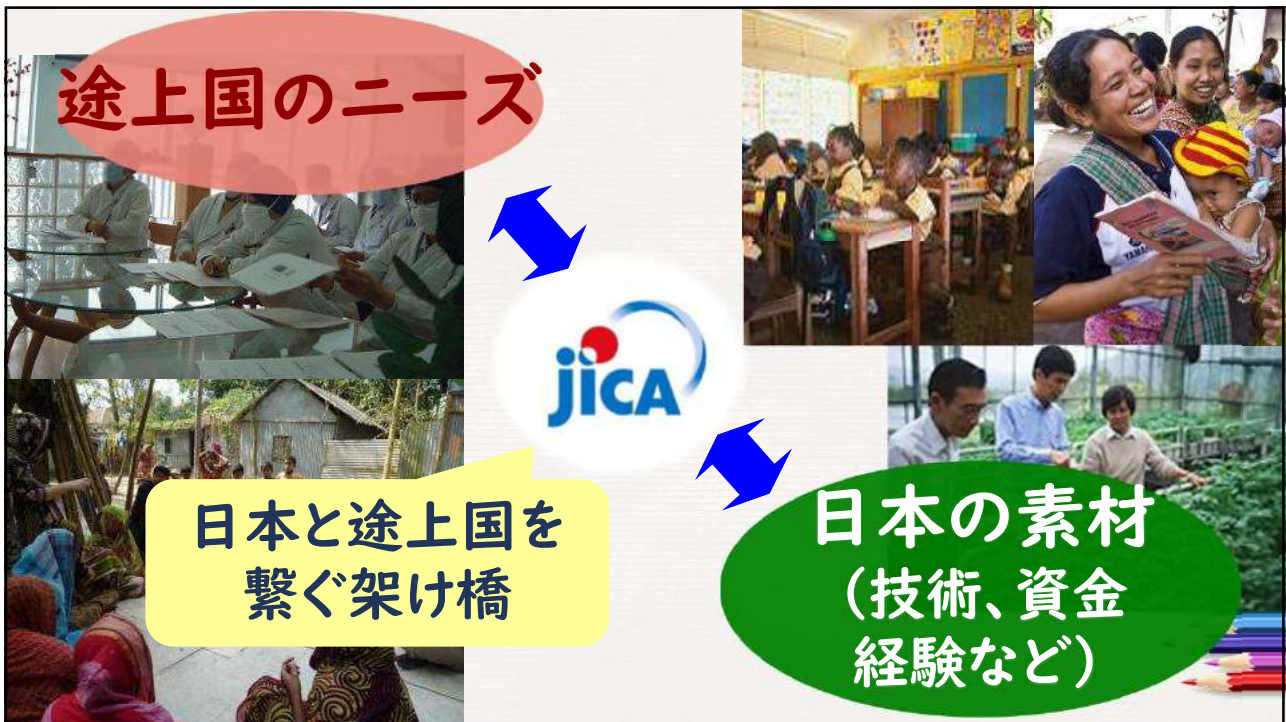




帯広発 先進農業を学ぶ!



北海道発 JICA海外協力隊!



JICAは、開発途上国との信頼関係を特に重視し、途上国と共に課題の解決に取り組んでいます。



ところで



なぜ、



日本は途上国への支援を
行うのでしょうか？



Question 1

世界には、いくつ国があるでしょう？

①

67

②

124

③

196



Question 2

JICAが支援を行うような「開発途上国」と呼ばれる国々の割合 (%) は？

①
70%

②
15%

③
50%

先進国

一人あたり
GNI：12,746米
ドル以上

約40か国

(日本、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ヨーロッパ諸国など)

開発途上国

一人あたり

GNI：12,745米ドル以下
政府開発援助受取国

94か国

(モロッコ、チュニジア、エジプト、赤道ギニア、モンゴル、ウズベキスタン、マレーシア、フィリピン、エクアドル、パラグアイなど)

出典：OECD 開発援助委員
(DAC)

援助受取国・地域リス

後発 開発途上国

一人あたり
GNI：1,035米
ドル以下
他、HAI・EVI指標を基準として「後発開発途上国」と定義。

47か国

(ブルキナファソ、ソマリア、南スーダン、アフガニスタン、カンボジア、キリバス、ハイチなど)

出典：外務省

※Gross National Income=国民総所得



これって
どこ産？



フィリピン
産



これって
どこ産？



アルゼンチン
産

途上国からの輸入が50%以上のものは
どれ？



相互依存 (Interdependence)

日本食
だけど…？

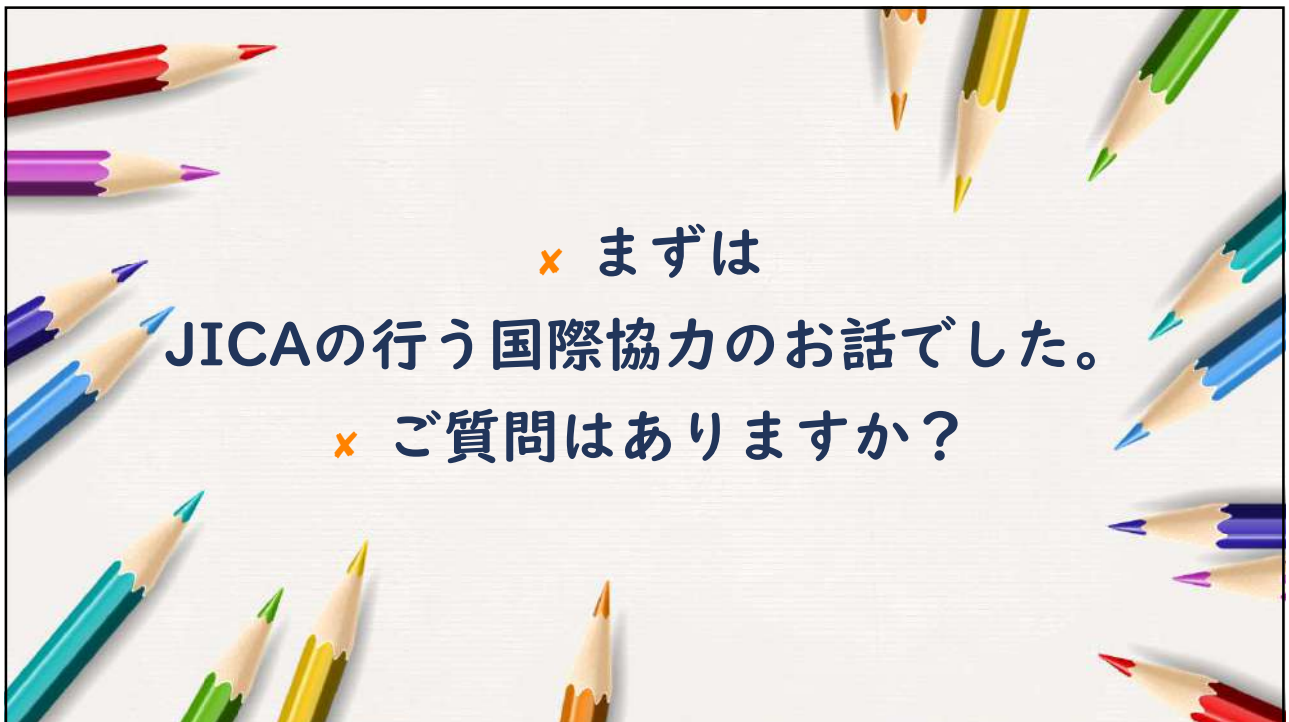


**身の回りにある
世界とのつながりを見つけてみましょう!**



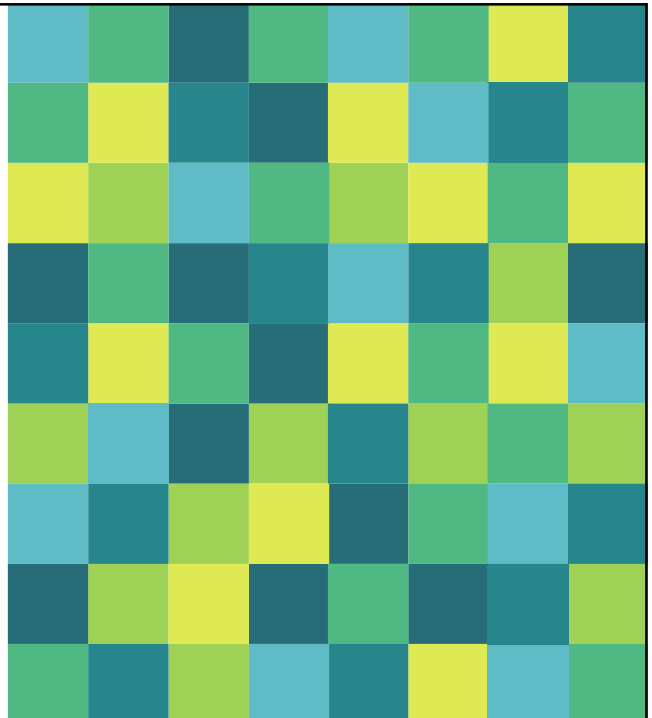
1990年に返済完了、援助を卒業



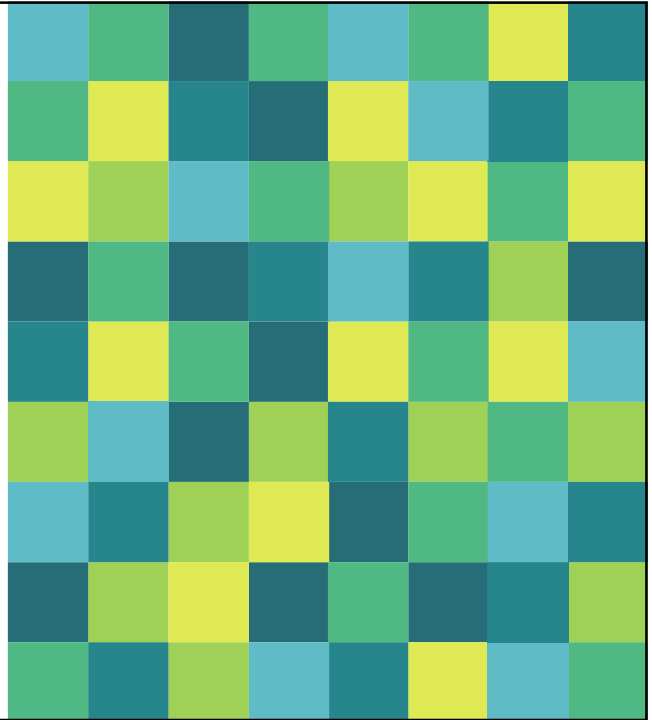


× まずは
JICAの行う国際協力のお話でした。
× ご質問はありますか？

JICA 北見デスクの ご紹介



北海道の 未来を想像

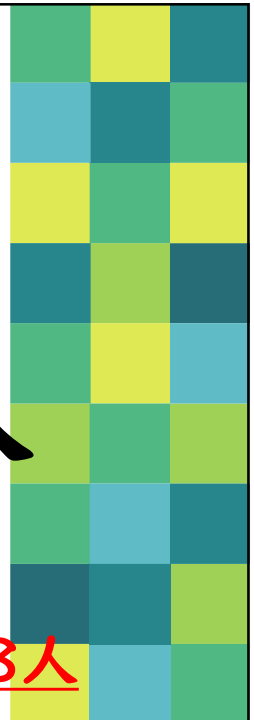


北海道の人口

5,183,687 人

(令和4年1月1日現在)

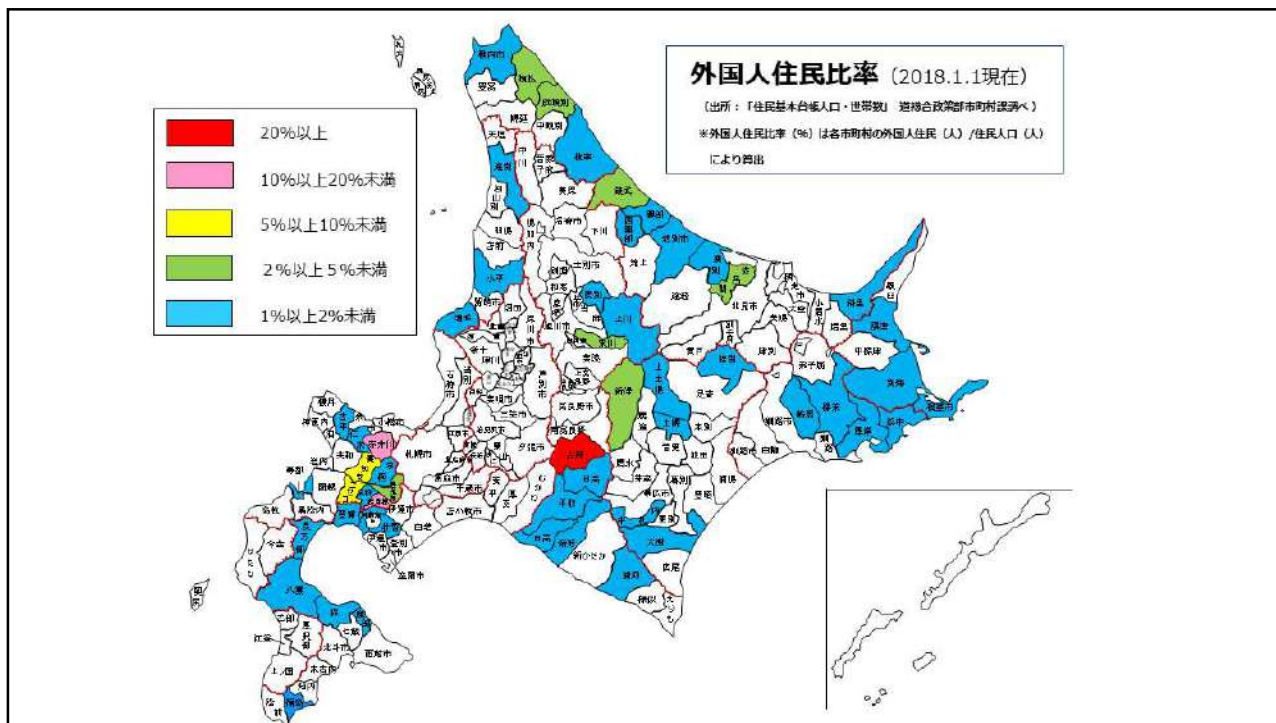
令和2年12月末から比べて **-45,388人**

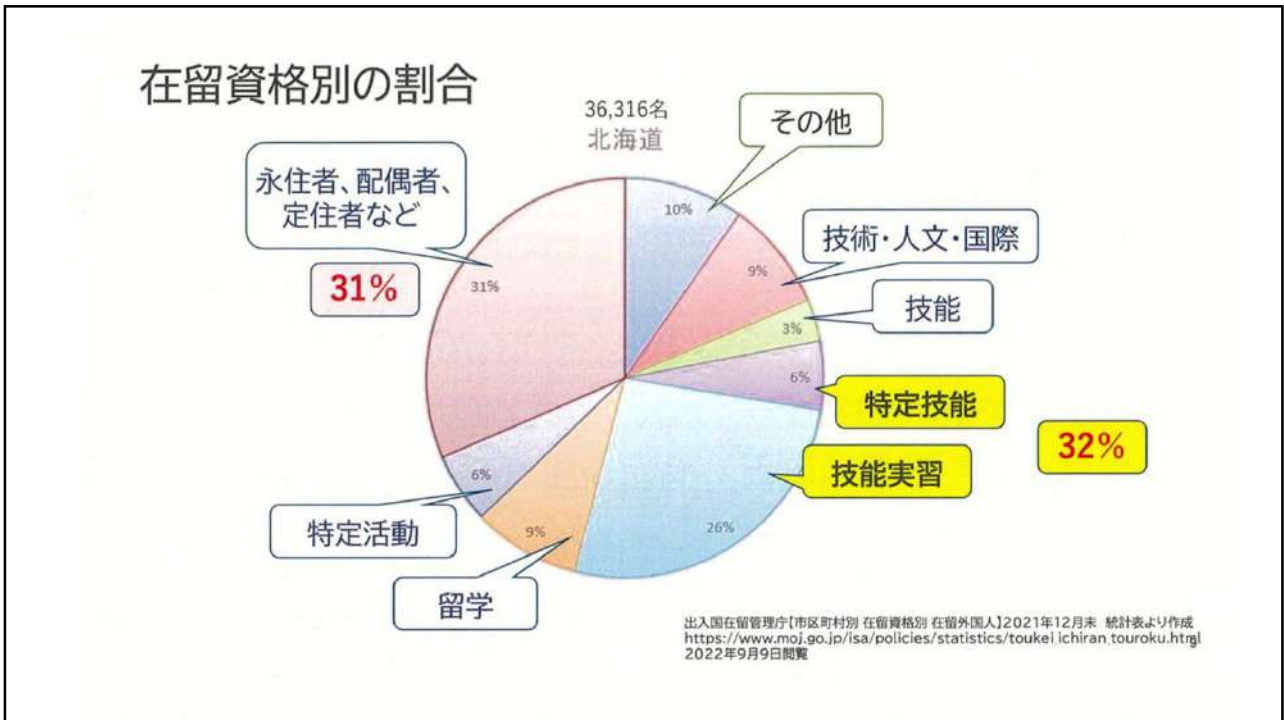
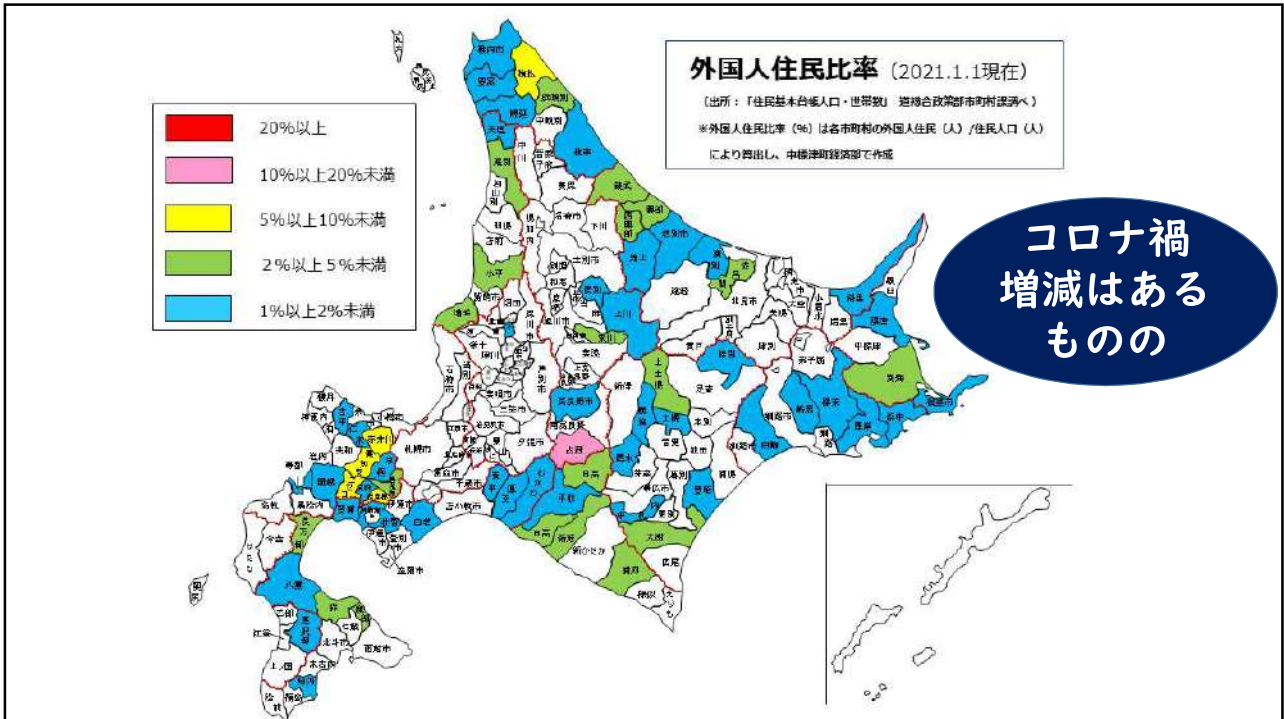


北海道に暮らす 外国人の数

35,627 人

(令和4年1月1日現在)





日本は移民大国…??

- x 日本の人口は年々減少…2050年には1億人を切る可能性も。
- x 様々な形で、海外から日本に来る人々は増加している。
- x 2019年 入管法改正
「特定技能」在留資格の新設。

在留期間は1年、更新を経て、通算で上限5年までと**短い期間**。
家族の帯同は認めない。

ちょっとワークショップ

(参照:北海道大学 講師 式部絢子さま)

20××年 美幌町に暮らす外国の方々が増えました!

どんないいことがありますか?

- x 一つのふせんに、一つのこと
- x 単語でOK
- x 質より量!
- x ふせんは何枚でも使ってください

ちょっとワークショップ

(参照:北海道大学 講師 式部絢子さま)

20××年 美幌町に暮らす外国の方々が増えました!

どんな心配ごとがありますか?

- x 1つのふせんに、1つのこと
- x 単語でOK
- x 質より量!
- x ふせんは何枚でも使ってください

Think globally, Act locally.

-地球規模で考え、身近なところで行動せよ-



令和4年度 美幌町社会教育委員研究調査報告

「第8次美幌町社会教育中期計画推進目標の研究
～推進目標3 多様性を尊重した学び」

令和5年3月 美幌町社会教育委員会議